



診療科動画

診療科 HP

消化器内科



1. スタッフ

診療科長(教授) 田中 靖人
 准教授1名、講師1名、診療講師1名、助教3名、特任助教9名、医員19名

2. 診療科の特徴、診療内容

消化器内科では食道、胃、小腸、大腸、肛門、肝胆膵などのすべての消化器疾患を網羅し、臨床経験豊富な専門医が検査や診療を担当している。具体的には、拡大内視鏡、超音波内視鏡、カプセル内視鏡などの特殊内視鏡検査による精密診断、内視鏡的粘膜切除術(EMR)、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)、内視鏡的乳頭括約筋切開術(EST)、内視鏡的乳頭バルーン拡張術(EPBD)、食道胃静脈瘤硬化療法・結紮術などの先端的な内視鏡的治療、原発性肝癌(以下、肝癌)に対するラジオ波焼灼術、肝動脈塞栓術、リザーバー動注化学療法や分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害剤による薬物療法、ウイルス性肝疾患に対する抗ウイルス療法、難治性消化器癌への抗がん剤治療、炎症性腸疾患への免疫抑制療法などに精力的に取り組んでいる。一方、新薬に対する治験にも積極的に参加し、多くの患者に案内している。このように消化器内科では、多岐にわたる消化器疾患に対して、最適で最先端の治療を受けることが可能である。

3. 診療体制

○外来診療体制

(月曜) 肝：瀬戸山、吉丸、檜原

消化管：直江、古田、山崎 胆膵：吉成

(火曜) 肝：飯尾 消化管：具嶋、古田 胆膵：牛嶋

(水曜) 肝：田中(靖)、飯尾 消化管：宮本、脇

(木曜) 肝：長岡、渡邊、稻田

消化管：直江、具嶋 胆膵：大塚

(金曜) 肝：徳永、田中(健) 消化管：松野、園田

○病棟診療体制

腹部超音波検査、内視鏡検査・治療、血管造影、肝生検、肝癌経皮的治療などの検査、治療を原則毎日行なっている。またチーム診療を行っており、下記のように症例検討会を開催している。

(月曜) 肝臓カンファレンス、3科合同カンファレンス(肝臓、消化管)

(火曜) 新患カンファレンス、回診

(木曜) 消化管カンファレンス

(金曜) 内視鏡カンファレンス

4. 診療実績

○疾患別の入院症例数(令和4年度)

肝細胞癌、肝癌 424例、肝腫瘍 17例、肝硬変 24、肝性脳症・腹水 10例、肝炎 34例(B型慢性肝炎3、C型慢性肝炎2、急性肝炎5、自己免疫性15、アルコール2、非アルコール性7)、肝障害 5例、急性肝不全4例、原発性胆汁性肝硬変1例、原発性胆汁性胆管炎2例、肝門部胆管癌5例、肝内胆管癌10例、胆管癌5例、総胆管結石11例、胆管炎36例、胆のう癌10例、膵癌110例(頭部59、体部19、尾部23含む)、膵炎

急性膵炎11含む)仮性膵のう胞2例、消化管出血5例、食道静脈瘤47例、食道癌140例(上部4、中部22、下部21含む)、噴門癌2例、食道胃吻合部癌12例、食道狭窄5例、胃癌92例(早期20、中期26、前庭部29、底部2含む)、胃腺腫3例、急性出血性胃潰瘍5例、好酸球性胃腸炎6例、十二指腸癌11例、十二指腸腫瘍14例、十二指腸腺腫20例、出血性十二指腸潰瘍10例、小腸潰瘍1例、盲腸癌13例、大腸癌47例(上行結腸4、横行結腸12、下行結腸2、S状結腸15含む)、大腸腫瘍17例、大腸腺腫107例、潰瘍性大腸炎34例、大腸憩室出血11例、クローラン病61例、腸炎15例、イレウス3例、ポリープ83例(胃3、大腸78含む)、直腸癌22例、直腸腫瘍7例、その他190例

○主要な疾患の治療実績(成績)

★C型慢性肝疾患に対して、2014年12月よりインターフェロンフリーの抗ウイルス治療を導入しており、今まで550例に投与し、最新の治療ではほぼ100%近いSVR率である。

★切除不能肝細胞癌に対する薬物治療(一次および二次治療以降)として、今までアテゾリズマブ+ベバシズマブ治療を98例、デュルマルマブ+トレメリムマブ治療を2例、ソラフェニブ治療を327例、レンバチニブ治療を163例、デュルマルマブ治療を4例に行っている。また、二次治療以降の薬物治療としてレゴラフェニブ治療を38例、ラムシルマブ治療を21例、カボザンチニブ治療を12例に行っている。さらに、肝動注リザーバーシステムを用いた肝動注化学療法(IFN-5FU、low dose FP)を198例に導入している。

★表在型消化管腫瘍に対してのESDは、食道88例、胃86例、大腸47例に施行し、大きな偶発症もなく処置を行っている。また、他科と連携した治療も行っており、耳鼻咽喉科との合同手術であるELPS/ESD 37例、消化器外科との合同手術であるLECSは12例で十二指腸腫瘍に対するLECSも導入している。

○検査・治療の実績等

年間検査数

腹部超音波3,352例(内 造影超音波検査89件、肝硬度測定(SWE)409件、(Fibroscan)833件、上部消化管内視鏡5,176例、下部消化管内視鏡2,342例、胆・膵EUS 228例、EUS-FNA 166例、ERCP 448例、肝生検43例、肝腫瘍生検44例、ラジオ波焼灼治療33例、腹部血管造影19例、TACE 87例、肝動注化学療法(シスプラチナまたは5-FU単回動注)23例、肝動注リザーバー留置1例、CVポート造設55例、カプセル内視鏡103例、小腸ダブルバルーン内視鏡64例、食道造影99例、胃造影検査56例、十二指腸造影7例、小腸造影3例、注腸造影15例)

5. 臨床試験・治験の取組

★治験(令和4年度)15件

★多施設共同臨床研究

- 1) 切除不能高位胆道悪性閉塞を伴う膵癌に対する10mm径および12mm径金属ステントの無作為化比較第III相試験
- 2) 家族性膵癌家系または遺伝性腫瘍症候群に対する

- る早期膵癌発見を目指したサーベイランス方法の確立に関する試験
- 3) 切除不能 Intermediate stage up-to-seven 基準外肝細胞癌におけるアテゾリズマブ+ベバシズマブ療法の有効性、安全性を検討する多施設共同第II相臨床研究(REPLACEMENT study)
 - 4) AI を用いた膵神経内分泌腫瘍の術後再発予測モデルの構築：多施設共同後方視的研究
 - 5) 閉塞性黄疸を有する 1 型自己免疫性膵炎に対する胆管ステント非留置下ステロイド投与の安全性評価試験
 - 6) 切除不能肝細胞癌患者に対するアテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法の多施設共同前向き観察研究(ELIXER 試験)
 - 7) 熊本県における切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法に関する観察研究
 - 8) 呼気中アセトアルデヒド/エタノール濃度比と頭頸部・食道がん発症リスクの関連性に関する研究
 - 9) 呼気中アセトアルデヒド/エタノール濃度比とNAFLD 線維化の関連性に関する研究
 - 10) 眼科患者を対象とした C 型肝炎ウイルス (HCV) 潜在的キャリア拾い上げにおける有効性研究
 - 11) ゲノムワイド関連解析(GWAS)による免疫チェックポイント阻害剤の irAE 予測因子の同定
 - 12) 肝内胆管癌の全身化学療法に関する前向き観察研究
 - 13) 不顕性肝性脳症に対するリファキシミンの有効性に関する研究
 - 14) 切除不能肝細胞癌における血管新生関連因子、腫瘍免疫関連因子を検討する多機関共同観察研究(PRISM-Bio Study)
 - 15) HBV 既往感染歴を有する造血器腫瘍における、iTACT-HBcrAg モニタリングによる HBV 再活性化対策：多施設共同前方視的観察研究

6. 地域医療への貢献

- ①熊本県がん検診従事者（機関）認定協議会肝がん部会（部会長：田中靖人）
- ②熊本県肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会（委員長：田中靖人）
- ③講演会開催
 - 2022 年度日本肝臓学会肝がん撲滅運動
 - ・医療従事者向け講座
県内 9 カ所で開催 参加者総数 134 名
 - ・市民公開講座
県内 6 カ所で開催 参加者総数 75 名
熊本会場はアルコール依存症の特別講演も実施し、WEB 配信とハイブリッド開催した。後日、講演内容を YouTube 動画配信した
 - 肝臓病・消化器病教室
出張型 1 回開催 参加者総数 30 名
 - 熊本県肝疾患コーディネーター養成講座
年 1 回開催 参加者総数 79 名
 - 熊本県肝疾患コーディネーター研修会
年 2 回開催 参加者総数 132 名

7. 医療人教育の取組

- 1) 卒後臨床教育の取り組み
初期研修では医師としての基本的な知識や技術の習得に加え、学会発表などの学術面でも支援を行っている。
- 2) 専門医取得のための支援
内科専門医：3 年間の後期研修は内科認定施設にて行い、認定取得のために必要な症例を経験させている。内科認定医取得後、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会、日本臨床腫瘍学会の認定施設をローテーションし、専門医資格を取得できるよう指導を行っている。
- 3) 地域医療人を対象とした卒後教育
医師会講演会や、消化器内科が主体となった
①日本肝臓学会肝癌撲滅運動医療従事者講演会
②熊大病院内視鏡セミナーなどを通して、消化器疾患、肝疾患の最新の情報を提供し、地域の医療レベルの向上に貢献している。

8. 研究活動

- 1) HCV に対する IFN free 治療の効果とその後の予後についての臨床研究：SVR 後肝癌に関する遺伝要因含む因子をオミックス解析により同定する。また治療前後の血中エキソソームや蛋白・サイトカインの変化を解析し、肝発癌を予測するバイオマーカーの同定を行う。
- 2) B 型創薬研究とその臨床応用：肝炎撲滅を目指して、B 型肝炎創薬研究及び最新のグローバル臨床治験を複数行っている。AMED（日本医療研究開発機構）・田中班（代表：田中靖人）として、全国多施設共同研究を展開している。「2022～2026 年 AMED 肝炎等克服実用化研究事業：実用化に向けた B 型肝炎新規治療薬の開発」
- 3) 消化器疾患 Microbiome 解析
- 4) 消化器癌・肝細胞癌の増殖進展機構の解明とそれに基づく治療法の開発。
- 5) ゲノムワイド関連解析(GWAS)による免疫チェックポイント阻害剤の irAE 予測因子の同定
- 6) 肝炎・肝細胞癌誘導因子の制御機構の解明とそれに基づく治療法の開発。
- 7) 生活習慣病としての消化器疾患の病態解明
- 8) HBV の再活性化メカニズムの解析・再活性化防止への取り組み
- 9) 内視鏡検査に関する臨床研究 (Interval colorectal cancer)
- 10) 肝硬変に伴う二次性サルコペニア患者におけるアルブミンの構造および機能多様性の検討
- 11) C 型肝炎ウイルス検査陽性者に対する受診勧奨を目的とした病病（病診）連携システム構築及びその効果についての観察研究
- 12) 炎症性腸疾患におけるサーチュイン遺伝子発現の意義の検討